

聞かせる唱歌に就いて

目白幼稚園 和田 實

保育事業としての談話に、聞くことを主とする部分と、

話すことを主とする部分とある様に、保育事項としての唱歌にも、唱はせることを主とする唱歌と、聞かせることを主とする音楽とがあつて然る可きだらうと思ふ。唱歌と云ふ以上、唱ふことが主であるから、聞かせることを主とする音楽は別問題である、考へれば考へられぬこともないけれど、夫れでは聞かせることの音楽的教育は必要がないと云ふことになりはしまいか。是は大なる問題であらう。

元來、音楽教育に聞かせることを主とする教育を缺いて居つたことは、従來の大缺點と云はなければならぬ。高等女學校の卒業者と雖も、家が富裕で、音楽會などへ高價な入場料を拂つて出入するものか、或は蓄音器を持つて居て古今の名曲を日常に楽しみ得るものゝ外は、ベーターペン

の「月光曲」が何んなものやら、シヨパンの「夜想曲」が何んなものやら、一向知らぬと云ふ有様であり、又夫れで一向差支ないこの様に、我も人も思ふて居つたのが、過去の狀態であつた。併し、藝術は科學と共に文明の財産であつて、科學的知識が文明人の持たねばならぬ資格の一つとすれば、同様に藝術の若干は、各人の修養に應じて持たねばならぬ一つの常識であらうと思ふ。日本の近松を知り、紅葉を語る様に、ゲーテの「ファスト」を語り、ユーゴーの「レ、ミゼラブル」を話すのが常識ある文明人とすれば音楽に於ても、古今の名曲に就いて多少の聞き覚えがなくては話しにならぬ譯ではあるまいか。然るに、文學史を一方に教ゆる高等教育にも音楽に就いては唯、唱ふ可きものを教ゆるで、夫れ以上には出ないと思ふのが、従來の音楽教

育であつた。是が果して、正當な音樂教育であらうか。嘗つて、音樂學校の教授田村虎藏氏が高等師範の附屬に教鞭を採つて居られた頃、時々、單に生徒に聞かせる爲めに、種々の小曲を弾じて居られたことがあつた。夫れを又生徒が大變悦んで居るに云ふことを聞いて居るが、然もある可きことだと思つた。

元來、子供の耳に云ふものは生れて三四週間にして感覺は充分に役立つ様である。従つて、其頃より音樂的音調に傾聽する様になる。或心理學者なきは生れて四五週間にして音樂的音調に耳を貸さない様なものは、音樂的修養に適さぬ子供だに云へ云つて居る位である。斯の如く、耳に云ふものは口舌よりは遙かに早く發達して居るものであるから、子供は口に唱ふことは出来なくとも耳には理解するところが出来る筈である。吾々も、手にピアノを弾ずる技術なく、口に「バス」も「テナ」も何等技術がないけれども、名手の演奏を聞いて、愉快を感じる耳は持つて居る。是が悪いことであらうか。唱ふこと、弾くことが出来なければ音樂的修養は云へないのであらうか。なぜ、高等女學

校では唱ふこと丈教へて、聞くことを教へないのだらうか。吾人は久しく疑問として居るものである。幼兒は唱ふことの出来ぬ中から、母親の「子守り歌」を聞いて悦んで居たのである。耳は口より遙かに先きに進んで居る。唱ふことの出来る前に、聞くことは充分に出来るのである。此意味で、音樂教育は唱ふことを教ゆる前に充分に聞かせて遣らねばならぬ。聞かせることに因つて、子供の耳は發達する。音樂的興味は發達する。其結果は、唱歌を好み、發聲機能の發達もなる。斯様にして、一方に聞かせることに因つて教育し、引き續いて唱ふ教育を施すに云ふのが、音樂教育の常道ではないかと思ふ。聞くところに因るに、山田耕作先生は子供に聞かせることを主とした小曲を編輯されて居られたに云ふことである。甚だ意義あることだと思ふ。

斯様に考へて來るに、幼稚園でも、單に、唱ふことを教ゆるばかりが保育でもあるまいと思ふ。子供は唱つて樂しむ前に、聞いて樂しんでよい譯であり、又夫れが耳の發達が口より進んで居るに云ふ理由で、正當な耳の持つ可き權

利でもあると思はれるのである。そこで、幼稚園では、如何に聞かせる音楽に因つて、子供を樂ますことが出来るかを研究する價值があると思ふ。

子供に聞かせる施設をする前に、幼稚園の先生は子供に聞かせる爲めに、先づ、自から能く唱ふ先生になる必要がある。先生の喉は立派な樂器である。先生の肉聲は蓄音器や「ラヂオ」よりも子供には快味が多いのである。先生の唱ふものは子供には非常な興味を持つて迎へられる。屢々聞くことを悦ぶ。斯くして、耳に慣れると、次には口に模倣する様になる。是れが子供の唱歌に向つて發達して來る順序である。故に、先生は能く唱はねばならぬ。正しく發聲して模範を示さなければならぬ。従つて、先生の聲樂練習は相當、正確な練習を積んで居らねばならぬ。然るに、惜しいことに、幼稚園の先生の音樂修養は稍々もするに樂器の練習が主になつて、聲樂の方は兎角、御留守になり勝の様であるが、是は警めねばならぬことだらうと思ふ。幼稚園の先生は少くもコールブングンの一冊位は正確に練習して置かねばなるまいと思ふ。斯様にして、時々先生が

子供にお互に獨唱を仕合つて、子供の悦びさうなよい歌を聞かせるならば、子供は自然に其興味を向上し、益々教育の目的に向つて進歩發達することが出来るだらうと思ふ。施設の一端としては、今の處、先づ蓄音器の利用であらう。幼兒に恰好なレコードを選択することが因つて、機會ある毎に之を利用す可きだらうと思ふ。

新幼稚園唱歌講習會

教育音樂協會編纂の新幼稚園唱歌について、本會で講習をいたします。本號廣告面につき詳細を御覽の上多數御出席下さい。